

# 農園通信

2025年7月・8月

発行・問合せ先: 島本町農業振興団体  
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

## 夏は頑張らないで！

今年も夏の高温が予想されています。一昔前の夏の暑さとは違います。

すでに梅雨の中休みから酷暑が始まり、9月中旬まで長い猛暑が続きます。日中の外出は避けること、畑に行くのは朝の9時までか、夕方の17時以降に。

「夏は畑はお休み」とするのも1つのやり方です。トマトは35度を超えると花は咲いても結実しませんし、カメムシの被害も多くなりますから「お終い」とします。1回目のキュウリも7月中旬までが盛り。カボチャやスイカやサツマイモはマルチ等をすれば水やりはそんなに要りません。ただ茄子は11月まで採れるので、乾く畑では枯らさない工夫が必要です。(水分の多い畑は水やり要らない。)



心が折れないように、夏の水やりの世話は少なく！家庭菜園は仕事ではないので、夏は世話のあまり掛からない野菜を植えておいて、夏野菜に執着せず早めに切り上げて、冬野菜の準備を考えましょう。ただし、夏草を繁茂させないこと！夏草の繁茂はお隣りへの迷惑になりますし、また秋になって冬野菜を植えようと思っても草の片付けが大変で畑が嫌になってしまいます。

【梅雨の間に梅雨明けを考えて！】 ◇夏草が繁茂しない工夫をする。◇土を覆い、土

の保水を考える。 草は光が入らなければ大きくなりません。土は露出していると土が焼け土の水分が抜けます。野菜で覆う、稲わらや草マルチ、ビニールマルチ、邪魔をしない草を生やす等をして、真夏に備えましょう。 \*野菜畝の黒マルチの上にも枯草を置いて高温対策を。

## 農業用水路の清掃ご苦労様でした

5月、6月 地区ごとに農業用水路の清掃が行われました。水利組合の農家の方々ありがとうございました。参加された家庭菜園の方々もご苦労様でした。来年もよろしくお願いいたします。



## 草との付き合い—草にも個性

とても困る草と、利用できる草があります。地下茎を張るササ、ヤブカラシ、キシュウスズメノヒエ等や多年生で地中に養分をため込むものは困りもの。しかし、春の一年生雑草のハコベ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ等は野菜との相性は良く困りません。春先のカラスノエンドウにびっしりとアブラムシが付いていてびっくりしたりしますが、それが益虫のテントウムシを呼び寄せてくれて、野菜のアブラムシの繁殖を防いでくれます。他方、夏雑草は野菜との相性が悪いです。(裏面に続く)



カラスノエンドウのアブラムシ

ツククサ、イヌタデ、メヒシバ等。まだ、ツククサは成長は速いですが草はすぐ刈れるので扱いやすいです。しかし、イヌタデは見た目はかわいいですが繁殖力がすごく、条件が合えば一面に広がります困ります。畑によって困りものの草は違います。相手を知って、自分が大変でない方法で草と付き合みましょう。草との付き合い方は家庭菜園の難しくて大きなテーマですね。



## (;^ω^) 出来るもの出来ないものいろいろ 自然には勝てない

### 経験談

(Hさん) (6月)の畑仕事:5月初旬から5月末は豆類(スナップエンドウ、グリーンピース、空豆がこの順で)の収穫期でした。今冬は冬野菜が高騰した異常気象でしたが、豆類は順調に収穫できました。さて、その後作に何を作るかですが、私の場合は秋採りキュウリとサツマイモと決めています。5月中旬から6月初めにかけて大急ぎで豆類を片付けて石灰を撒き、6月初旬にエンドウ類の跡地に秋採りキュウリの種を撒きます。支柱やネットがそのまま利用できる利点があります。空豆の跡地にはサツマイモの苗を植えます。サツマイモは3月頃に2個買ってト口箱に芽出し用の土に埋めておくと6月頃には20本位の芽が出ているのでこれを切って植えるとほぼ全部が根付きます。このト口箱を6月末まで置いておくと又芽がたくさん出るので追加の苗にも使えます。

(Sさん)

タマネギ、バト病は周りを見渡しても発生は少なかった様に思います。予防措置として石灰水を散布していた方もいました。一週間程前に漸く収穫を終えました。ギリギリまで畑に置きました。トウ立ちも二本だけで、定植が遅かったものが小球となってしまいましたが。ホームタマネギ用として活用を予定。サツマイモは、紅アズマは種芋から育て、鳴門金時は苗を10本買いました。側枝を切り、合わせて40株をエンドウの跡地で育てる予定。(6/14)

明日はジャガイモ掘りの予定、未だ少し早い様な気はしますが(植えたのが遅いので)。キュウリも出来てきました。こぼれ種から育てているものも苦味がなくホットしています。ナスは漸く花が咲き出しました。分けつしたネギの整理とラッキョの収穫はこれから。(6/20)

(Oさん)

毎年、尺代の農園では玉ねぎ(晩生)がバト病に感染して不作でしたが、今年はバト病の感染はなかったです。近辺の畑でもバト病の影響は少なかったようです。バト病(カビの一種)の感染および発病は、10~20℃前後で起こると言われ、15℃前後で特に発生しやすい。卵胞子の発芽には適度な水分が必要となるため、高湿度状態(曇雨天)で葉面の濡れが1~2日続くと感染が起こりやすくなるとのこと(JAあつぎ営農通信より)。

(Fさん)

<成功したもの>トウモロコシ。トウモロコシは時期が遅いほど虫(アワノメイガ)の食害がひどくなるとのことで、今年は3月に種蒔き、4月に定植、6月に収穫しました。例年より虫害の少ないきれいなトウモロコシが出来ました。それでも、2日収穫が遅いと食害が進んでいます。メイガが食べるのが早いか収穫が早いかです。



トウモロコシ6/2 撮影

<良くないもの>カボチャ。例年うどんこ病が広がります。葉が枯れていくと、せっかく実どまりして10cm程に育っていた実がだめになっていきます。木が持ちこたえてくれることを待つのみです。

タキイの研究農場での研修会で、講師の先生から「納豆菌液を散布すると良い」と教わりましたが、今年は作る余裕がありませんでした。

採取したソラマメの種



水踏除の泥上げ(土)  
アノマの足跡

Sさん提供

農園通信のアーカイブ

島本町農業振興団体協議会 HP:島本町農業振興団体協議会